

## 令和5年度 第1回 都市計画サロン 報告

日時：令和5年8月1日（火）

参加者：14名

演題：「熊本市 桜町・花畑周辺地区の官民連携まちづくり」

講師：三池史子氏（熊本市都市建設局都市政策部市街地整備課）

### 講演内容：

（桜町・花畑地区について）

熊本市の中心市街地において、通町筋・桜町周辺が商業・業務等都市機能が集中している地区である。これらの地区と駅周辺、熊本城地区などをあわせ中心市街地活性化計画として策定している。

再開発の経緯として、核となる百貨店などの施設が老朽化しており、またバスターミナルもバリアフリー未対応など課題があることから、民間企業により再開発構想が発表され、その後再開発準備株式会社の設立、まちづくりマネジメント構想検討委員会の発足に至った。基本構想として「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」をデザインコンセプトに掲げ、車中心から人中心のシンボルプロムナードへの変化に官民協働で取り組んだ。

その後経済団体や地元団体、公募委員、行政機関を加えた検討委員会が立ち上がり、シンボルプロムナードの整備や周辺の一体的な利活用、管理運営に関する事項が検討され、建物から広場にするなどの構想などが発表された。またデザインガイドラインを策定することで民間の開発においてもデザイン性の統一を図っている。

平成26年には都市計画決定、平成27年には熊本市道を廃止し、完成までは仮のバスターミナルとして活用した。また平成27年には工事中のにぎわいを創出する場として、産業文化会館を解体し旧花畑広場を先行供用している。ここで運営管理のノウハウ等についても蓄積している。暫定供用の4年半でも高い稼働率（休日71.9%）となった。一方で熊本地震の発災により、一時避難先としての活用もなされた。またボランティアセンターとしても2か月間活用されている。

発災後桜町再開発施設については、耐震・防災性能の強化に向け見直しを行い、帰宅困難者の一時滞在施設に指定された。11,000人が3日間滞在することが可能となっている。また花畑広場につ

いても防災機能を強化している。

このような経緯を経て、令和元年には桜町再開発施設が開業、令和3年には花畑広場の全面供用が開始となった。花畑公園ではクスノキを中心に明るい木陰の中で歴史を感じる空間となっている。辛島公園では石張りを撤去し植栽等を増加させ、快適にくつろげる空間を創出している。

整備効果として花博などイベントによる利活用があり、令和4年度は年間200万人を突破している。また周辺でもコロナ禍で中心市街地の歩行者交通量が減少している中、桜町周辺では大幅に増加している。また、地価も大幅に上昇している。市民アンケートによると再開発事業後魅力度も増加した。

今後は昼も夜も歩いて楽しめる、魅力的で災害にも備えた都市空間を創出し、ウォークブルな街づくりを推進していく計画である。また広場の利活用については日常使いを楽しめるようにするためにくまもと広場ニスト育成スクールを開設し、企画を立案・実施するプロデューサーの発掘・育成・支援を行っている。

（熊本城ホールについて）

桜町再開発施設の一角に熊本城ホールを整備している。熊本市にはコンベンション施設がなく、コンベンション施設の建設基本構想から始まっている。この中でアクセスのしやすさからバスターミナルの再開発地を建設地として、再開発事業の保留床を熊本市が取得することとなった。市長の交代によりエンターテインメント重視など事業の精査・再検討を行った上で、様々な方の意見を伺いながらユニバーサルデザインにも配慮したうえで、令和元年に開業した。

### 意見交換：

広場文化の定着・経緯、整備効果（建築関係）などの意見交換がなされた。

（文責：福岡大学 田部井優也）

